

<R8年度 多津美中学校の重点取組>

「種蒔きの時期がくる前に、土を耕そう。」

生徒の変化を大切に。耕されていてこそ、種は芽吹きます。

<教師の在り方>

- 教師は伴走者
- その前の準備

● 自分を大切にし、互いの良さを認め合い、高め合う生徒の育成

「自己肯定感の醸成」(ほめて、認めて、感謝する)

- ・「非認知能力」を高め、「自己肯定感・コミュニケーション力・社会性」の向上。
行動を「価値付ける」声かけ(「事実」+「感謝」+「価値」)、「他者肯定力」
- ・コミュニケーション = (言葉、態度、身振り)×(相手への思いやり、相手軸)
- ・美点凝視(教師から生徒へのまなざし、生徒同士)

「道徳教育・人権教育の充実」(自己の建設)

- ・生徒と共に、生き方を考える授業の充実
- ・他者の多様な意見から、自らの考えを深める場づくり

「こころ」は見えないけれど
「こころづかい」は見える
「思い」は 見えないけれど
「思いやりは」だれにでも見える

「生徒主体の学校づくり」

- ・学校行事との連動、生徒会・委員会等リーダー育成
- ・協働する風土の醸成。キーワード「一緒にやろう!」を意識した指導・支援



● 主体的に学び、自らの能力を高める生徒の育成

① 「学びへの意識づけ」

- ・心に生涯学び続けようとする意識の醸成
- ・キャリア教育の充実

② 「基礎・基本の充実」

- ・学びを支える基礎学力、学び方、ICT活用

③ 「主体的で対話的な学び」

- ・一斉授業のみからの脱却、**教師は伴走者**
- ・PBLや「こ▶た▶こ」を意識した授業改革
- ・一人一台端末の活用推進

④ 「学びを生徒に委ねる」

- ・単元計画、評価計画の工夫と個別支援の充実

⑤ 「学びを客観的に捉える力を育成」

- ・単元ごとの学びの価値づけ
- ・次の学びへとつなげる「学ぶ意識」の習慣化

⑥ 「カリキュラムマネジメントの工夫」

- ・総合的な学習と教科の連動、行事、特別活動と教科の連動などの**効果的な教育活動**の計画、実施



ICT活用による
時間創出と
学びの支援



※ 研究授業の充実

※ OJT 研修の充実